

国の承認が得られました。

地球温暖化に歯止めをかけ、廃棄物から新たなエネルギーを生み出し、稀少動植物の住みやすい環境を守り続けること、さらには市民が地域の素晴らしさを再発見し、循環型農業の大切さを自覚することを通して地域おこしの原動力となることが期待できます。また、環境関連産業など企業誘致の有力な武器になります。環境のまちづくりを通して、雇用増・税収増・財政再建を推進します。

○公募方法の導入

広く市民の皆さんにも市政のあり方について考えていただき、できるだけ衆知を集めていただき、改革を進めるため、監査委員の公募に続き、助役や教育長を全国公募しました。また、従来、あて職で依頼していた各種審議会等の委員についても、欠員分から順次公募で選任するように改めました。

元気を出そう・加西

○三洋電機跡地の開発計画

今春、北条工場が鎮岩・東高室に移転集約されますが、跡地開発については、井植社長や井戸県知事等にも直接面談し、加西市の将来にとって望ましい土地利用がなされ

るよう要請しています。市としてもにぎわいや雇用の創出につながるよう、既に庁内にプロジェクトチームを立ち上げています。来月にも一定の方向性を示しできる見込みです。

○農業の再生、特産品の開発

市長は、多くの農業者と積極的
に交流や意見交換の機会を持つて
います。加西農業の再生と新たな特
産品の開発のため、4月1日から
食材課を新設し、地産地消の推進
と加西ブランドの創出に取り組みま
す。食材課の設置は全国自治体で
初めてのことです。

最後に

各種会議への出席や公式行事での挨拶など、市長の公務は多種多様です。加えて、加古川西部土地改良区理事長、加西北条都市開発
（株）社長、播磨三洋電機（株）取締役をはじめ、多くの外部機関の役員を兼務し多忙を極めています。これまで先送りされてきた問題は、前
倒し・フル稼働で対処しています。

加西市では、合併以来、一度も外部監査がなされていません。財政の現状を正確に把握し、改革のスタート地点を明らかにするために、外部監査制度の導入を考えて

います。

新年度においても、市役所内部の経営努力、業務の効率化等によって無駄を省き、より一層の歳出削減に取り組みます。たとえば、ゴミ発生量を減らせば、処理に費やす税金を減らして、財政を好転することができそうです。

また、現在、市長・助役は、全職員（医療職を除く）と個別面接を進めており、機構改革に向け、本人の希望や適正なども把握した上で、人事異動を行います。職員の意識改革を進め、権限も適宜委譲して職員が業務に主体的に取り組み体制をつくりたいです。

魅力あるまちとは、若者が定住でき、他都市の住民が住みたくなるようなまちです。質の高い行政サービスを効率的に提供すれば、各地からヒト・モノ・カネ・情報などが集まり、経済活動や地域間交流が活発化できます。早く加西市が元気になるよう、金をかけずに効果が上がる施策を展開していきます。



各種審議会委員を選定

市民の皆さんに加西市の現状を知っていただき、市民参画でより良いまちづくりを進めたいとの市長方針を受け、任期満了を迎えた各種審議会等の委員の改選については、原則公募で選出することとしました。

先に募集していた都市計画審議会と環境審議会の委員が決まりましたので、お知らせします。任期はともに、平成18年1月から2年間です。（敬称略）

加西市都市計画審議会委員

都市計画審議会は、加西市の将来の都市計画を決定する上で欠かせない審議会です。今回、2名の委員を公募し、次の方々に委嘱しました。

植田美紀子 丸岡 肇

2人からは、「市内に広がる豊かな田園風景を守り育て、美しい自然環境を壊さない土地利用計画を」、「中心街と周辺地のあり方のフラット化、高度化したアクセス網で京阪神との連携、商・農・工業の魅力の高度化」など、夢のある将来の加西市のまちづくりに関する提言がありました。

加西市環境審議会委員

環境基本計画の策定にあたって、身近な環境問題から地球環境問題まで環境保全活動に意欲的に取り組み、これからの加西市の環境について関心と熱意のある方を応募しました。予想を上回る多くの応募者の中から、次の12名の方に委嘱しました。

尾内 良三 大西 啓之
岡田 美香 小田 春幸
久保田修平 竹内 康行
田先 崇志 長谷川淳子
藤田 孝 森川 裕嗣
山根 裕二 吉田 廣

皆さんからは、「環境にやさしいライフスタイルへの移行」、「バイオマスタウン構想の実現」、「CO₂と不法投棄の撲滅、家庭ゴミの分別回収徹底」、「緑の中で自然体験する教育特区」、「溜池の有効活用」、「モデル里山づくり」…という提案をいただきました。